

400 年超える伝統農業から現代型営農モデル探る！

あきたで生きる～秋田の地域資源を活用し、秋田で暮らし、秋田を活かす取組～



事業者名 株式会社権右衛門
(にかほ市)

代表取締役会長 須田 貴志

経営概

経営面積 | 53ha

作物 | 水稻、秋冬ねぎ、春まきたまねぎ、そば

構成員 | 正社員4名、アルバイト 31 名

販売先 | JA、卸売業者、飲食店、
首都圏の学校給食事業者



株式会社権右衛門 HP

株式会社権右衛門(ごんうえもん)は、鳥海山と日本海を臨み、景勝地としても知られる「にかほ市象潟」で農業を営んでいます。名前は、先祖の「権右衛門」にちなみ名付けました。法人化してまだ5年目ですが、スマート農業や環境負荷の低い水稻の営農モデルの構築を駆使した持続可能な農業の環境づくりで、すでに地域を導く存在になっています。

▶ きっかけ

須田会長は高校卒業後、東京の会社に就職しましたが 25 歳の時に実家に戻り、家業の農業に従事しました。

地域では農業者の高齢化や担い手不足から耕作放棄地が増えており、地域そのものが衰退していくことに危機感を持っていました。解決のためには、受け皿となる組織が必要と考えていた折、甥(代表取締役社長)が自分と一緒に農業を始めたことをきっかけに、令和3年1月に法人化しました。



●従業員の皆さん

▶ 取組

主力の水稻は、父の代から農薬を使用しない環境保全型農業に取り組んでおり、販売は父が仲間と立ち上げた「有限会社なるほど舎」が行い、大手卸や首都圏の学校給食事業者、飲食店、個人のお客様に届けています。

生産は「権右衛門」、販売は「なるほど舎」と分担することで自分たちは栽培に専念できる環境にあるとのこと。

農薬に頼らない農業で、最も手間のかかる作業は「除草」です。令和4年5月からは、スマート農業を活用した環境負荷の低い水稻の営農モデルの構築を目指すため、にかほ市ほか4者の連携協定に参加し、抑草ロボットと乗用除草機を組み合わせた抑・除草体系を確立する実証試験に取り組んでいます。気温の上昇に連れ、年々雑草の勢いが増し、除草回数も増えていることが課題の一つとなっています。

また、権右衛門は毎年「インターシップ」で若者を受け入れ、農作業体験を通し農業の魅力など伝えています。



●実装試験中の抑草ロボット

▶ これから

権右衛門には離農農家から農地が集まり、現在では、にかほ市の9地区で広域に農地を管理しています。会社としては効率化のため農地を集約しなければなりませんが、農業が出来なくなった地域で請負いを止めてしまえば、そこに担い手がなくなり、やがて地域コミュニティそのものがなくなってしまいます。

須田会長は「農業に関心を持つ若者を雇用し農業を知ってもらい、その人が独立する際に、借り入れ農地を譲り渡すことで、地域の新たな担い手にしたい。最初は農業機械の貸出や作業の請負いなどでサポートし、地域に根付かせたい。」と、高齢化の進む農村で、農地の出し手も受け手も共倒れせずに営農する方策について話してくれました。



稲刈りの作業風景

(●写真:株式会社権右衛門提供)



発行: 東北農政局秋田県拠点地方参事官室 TEL 018-862-5611

農林水産省

東北農政局秋田県拠点